

Technology to Inspire Innovation

**2017年度決算及び
2018年度業績見通し
説明会**

2018年4月25日

6807 日本航空電子工業株式会社

I. 2017年度決算

II. 2018年度業績見通しと取組み

I . 2017年度決算

(2017年4月～2018年3月)

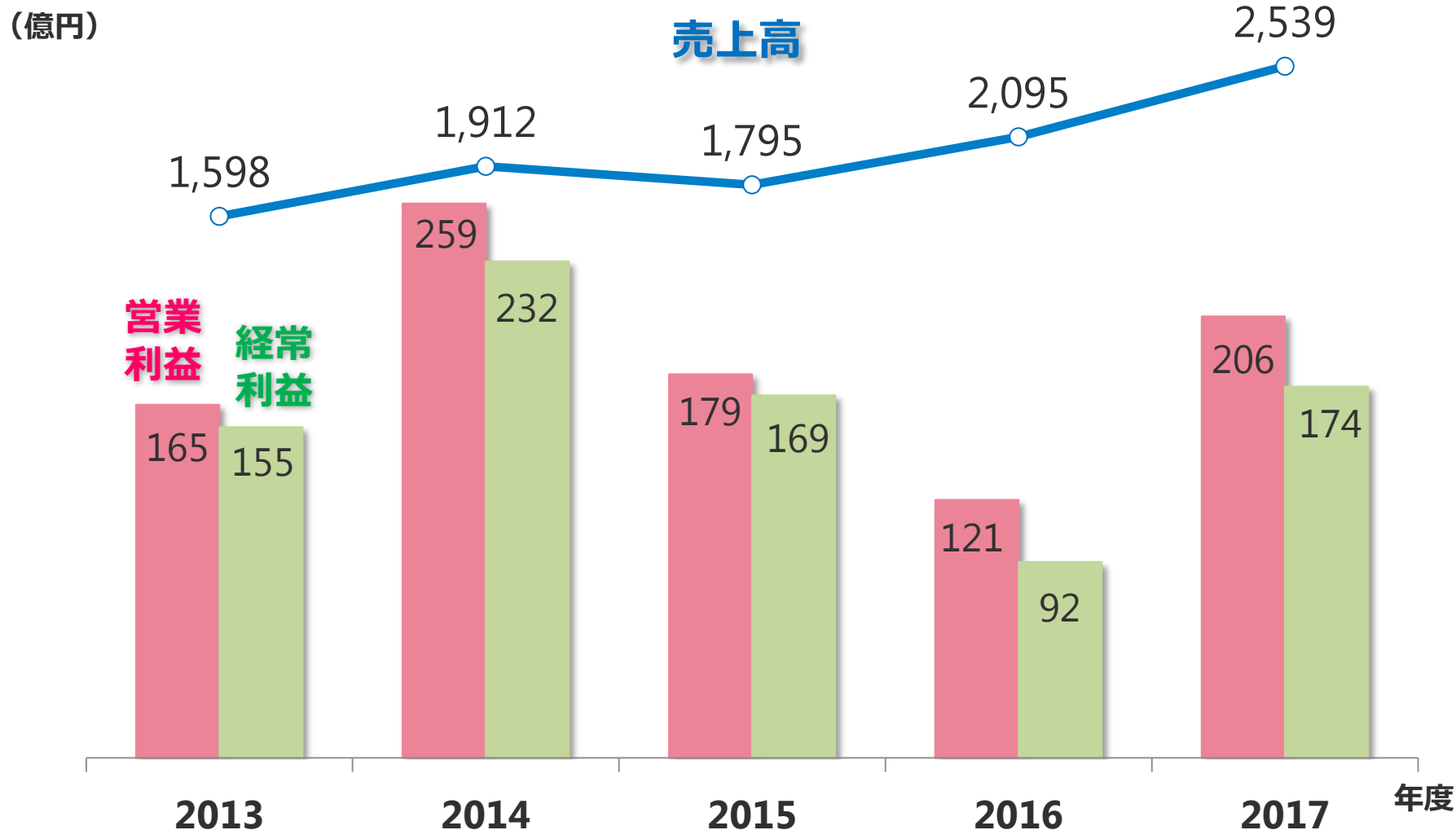
※ 本資料では、原則として金額は億円単位に四捨五入しておりますので、個別数値と合計値・増減額が一致しない場合があります。

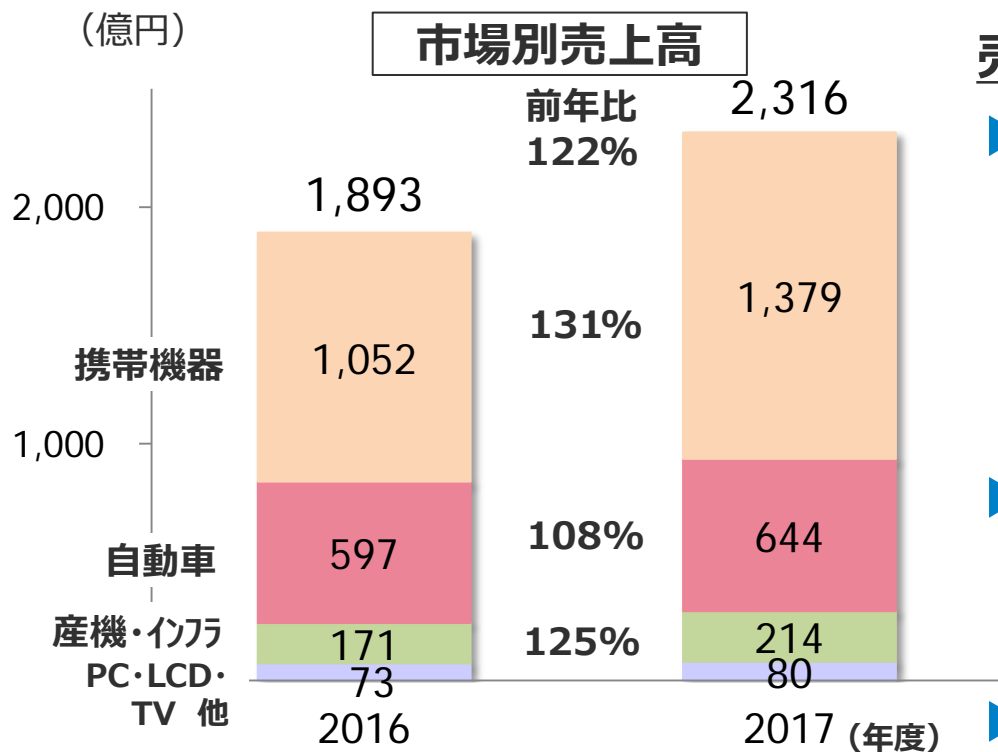
億円	2016年度			2017年度			前年比		2018年1月 予想値
	上期	下期		上期	下期				
売上高	899	1,196	2,095	1,245	1,294	2,539	444	121%	2,500
営業利益	41	79	121	95	111	206	86	171%	195
対売上比	4.6%	6.6%	5.8%	7.6%	8.6%	8.1%			
経常利益	26	65	92	85	89	174	82	190%	170
対売上比	2.9%	5.4%	4.4%	6.8%	6.9%	6.8%			
純利益	21	46	67	62	67	129	62	192%	120
対売上比	2.3%	3.9%	3.2%	5.0%	5.2%	5.1%			

設備投資	120	97	217	86	89	176	-42	
償却費	88	109	197	111	108	219	22	(固定資産の除却含む)

為替レート (円/US\$)	105.2	111.5	108.3	111.0	110.7	110.9	(期中平均)
-------------------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------

- ▶ 2015年度/2016年度の減益から大きく回復
- ▶ 2014年度に次ぐ、過去 2 番目の営業利益・経常利益を達成





売上高：前年比 122%

▶ **携帯機器**

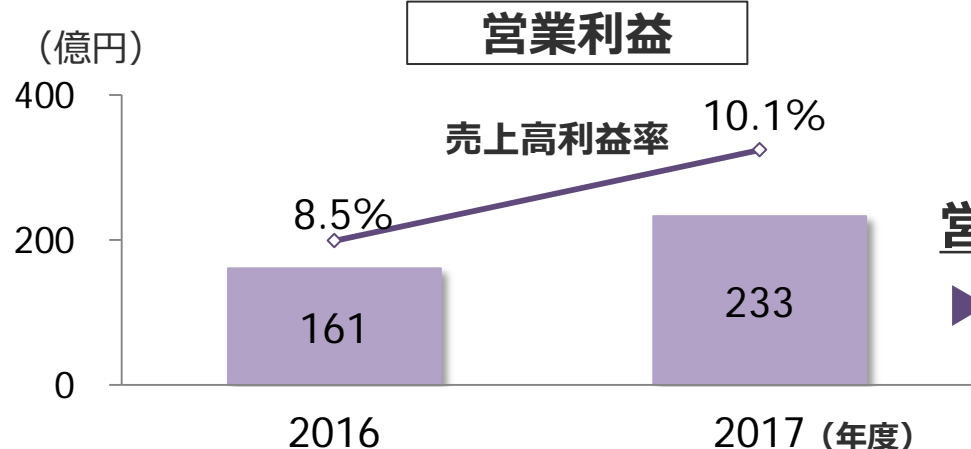
- 北米顧客向けが大きく伸長
- 外部購入品を組合せた製品や、USB Type-C「DX07シリーズ」等が成長を牽引

▶ **自動車**

- 国内、中国、欧州市場向けは2桁成長

▶ **産機・インフラ**

- 国内FA市場を中心とした好調な需要により大幅売上増



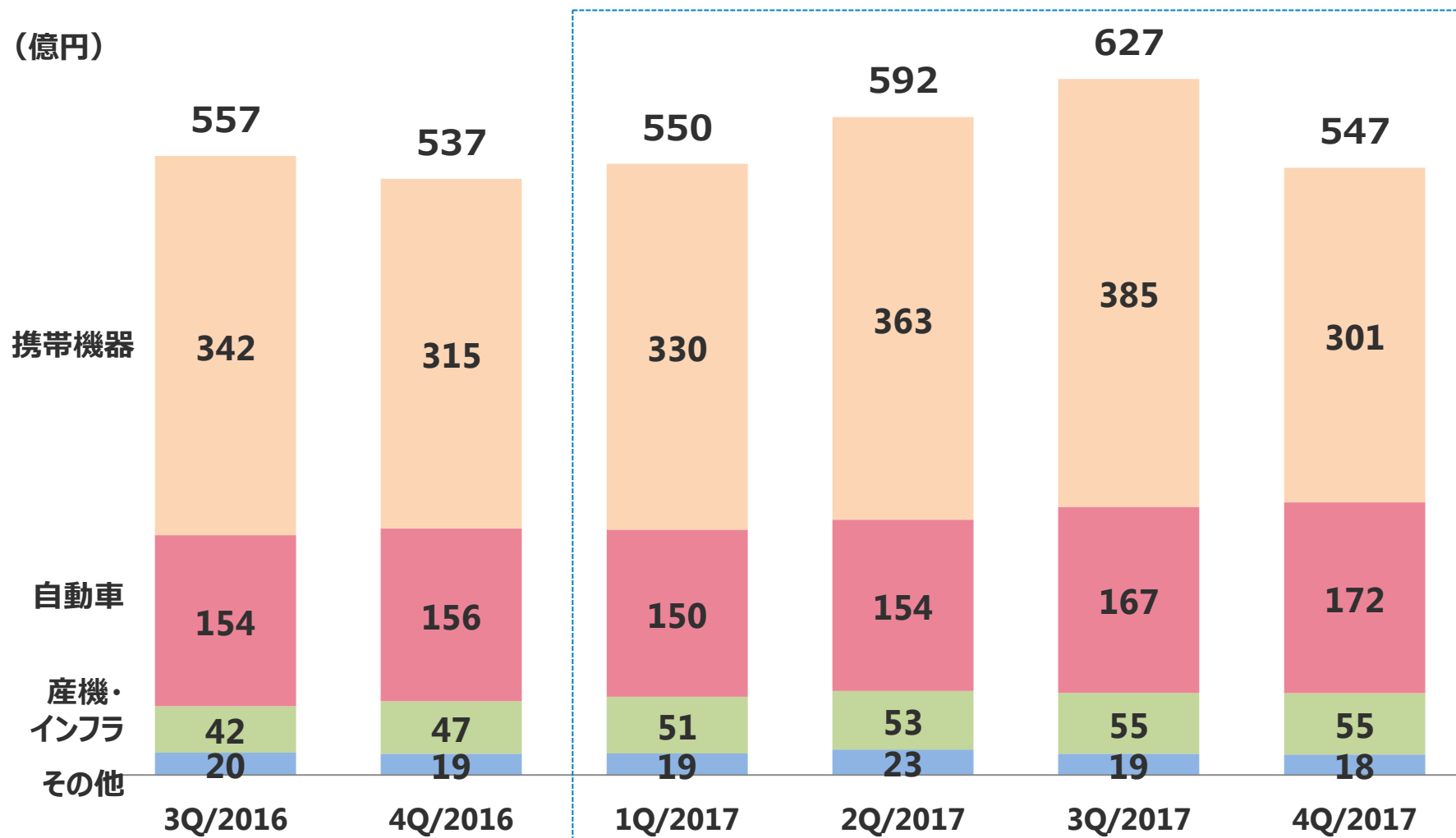
営業利益：前年比 +72億円

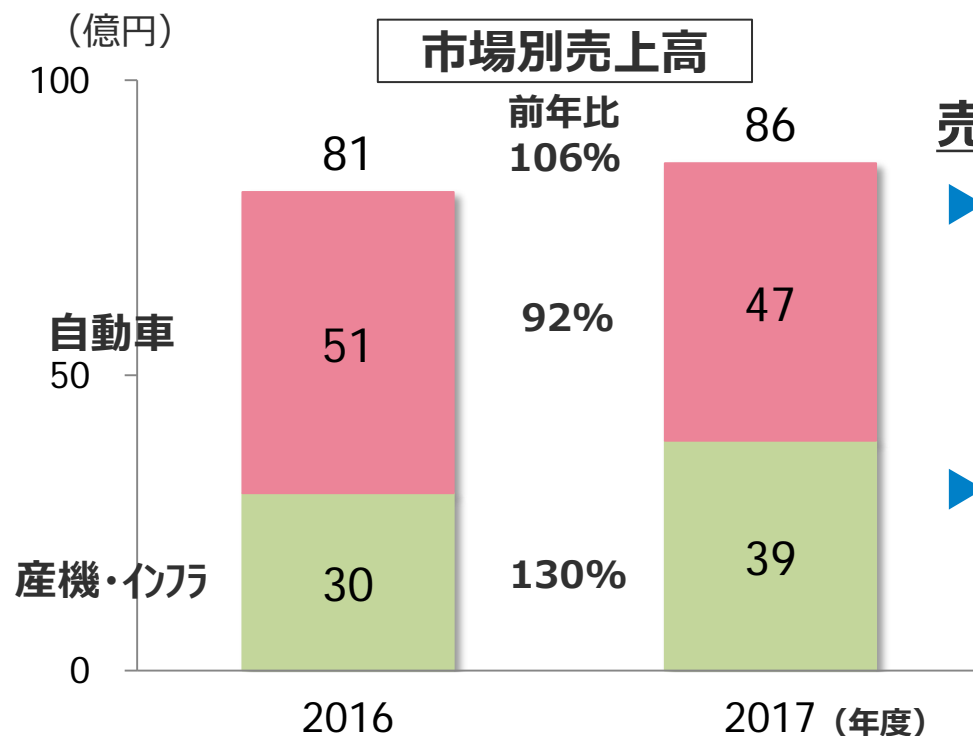
- ▶ 増収効果に加え、生産性改善により売上高利益率上昇

コネクタ市場別 四半期売上推移

- ▶ 携帯機器は、季節性および主要顧客の生産減により第4Qに減少
- ▶ 自動車、産機インフラは年度を通じて堅調な業績が継続

(億円)





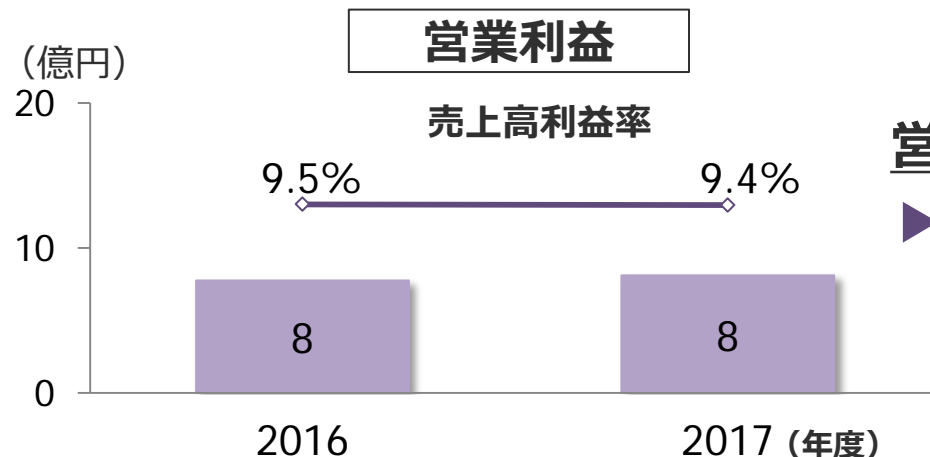
売上高：前年比 106%

▶ **自動車（車載タッチパネル）**

- 下期に新製品（フィルムセンサ）の量産を開始したものの、終息車種もあり、全体では微減

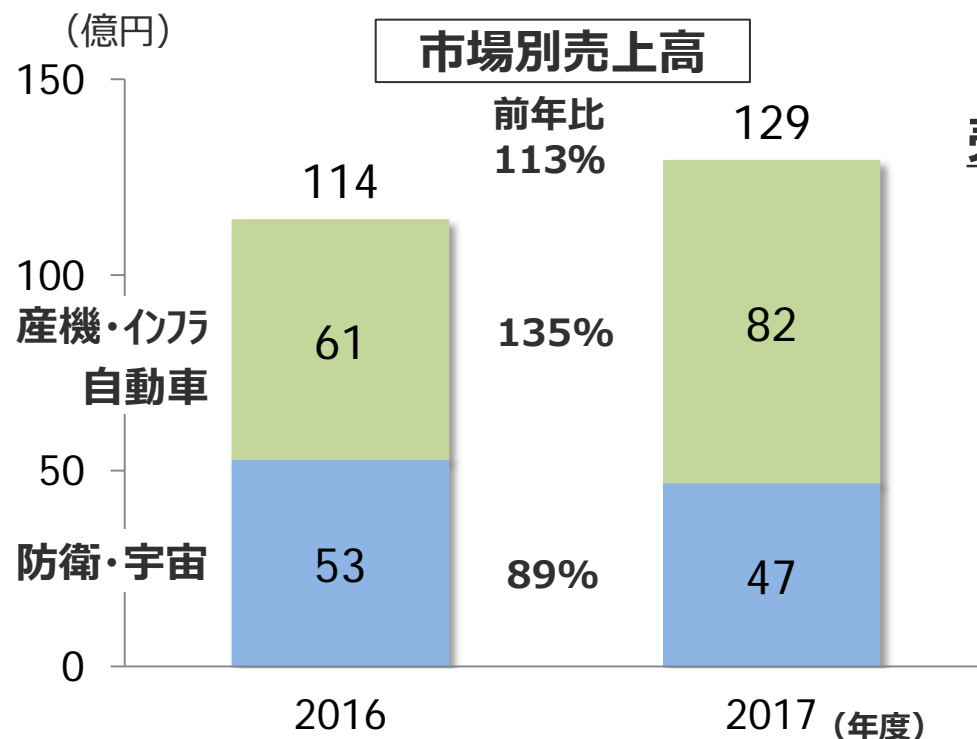
▶ **産機・インフラ**

- 市場の好調さを背景に大きく増加



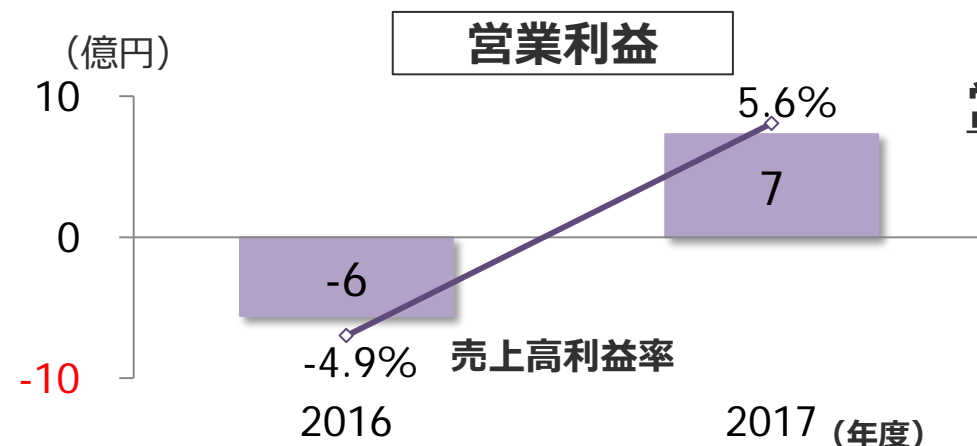
営業利益：前年比横ばい

- ▶ **タッチパネル新製品向け開発費、償却費等の増加を、産機売上増でカバーし前年並み利益を確保**



売上高：前年比 113%

- ▶ 産機・インフラ・自動車
 - 油田掘削向けセンサ、半導体露光装置向けリニアモータが好調に推移
- ▶ 防衛・宇宙
 - 防衛予算（国産品調達）の伸び悩みにより前年比減



営業利益：黒字転換

- ▶ 産機・インフラ向け売上増、生産性改善などにより年間黒字化を達成

Ⅱ．2018年度業績見通しと取組み

（2018年4月～2019年3月）

▶ 事業環境

- 世界経済の拡大基調は継続するものの、不確実性は増大
- スマートフォン市場は成長鈍化が見込まれるものの、自動車は電装化が一層進展、産機・インフラ市場は好況継続の見通し



▶ 重点戦略

- 携帯機器・ICT市場向け重点製品の拡販推進
(Type-Cコネクタ「DX07」、基板対基板用コネクタ等)
- 自動車市場での成長加速、産機・インフラ向けの高成長継続
- 一層の生産性改善による利益率向上
- 中長期的な視点での技術開発と生産体制の拡充

2018年度業績見通し

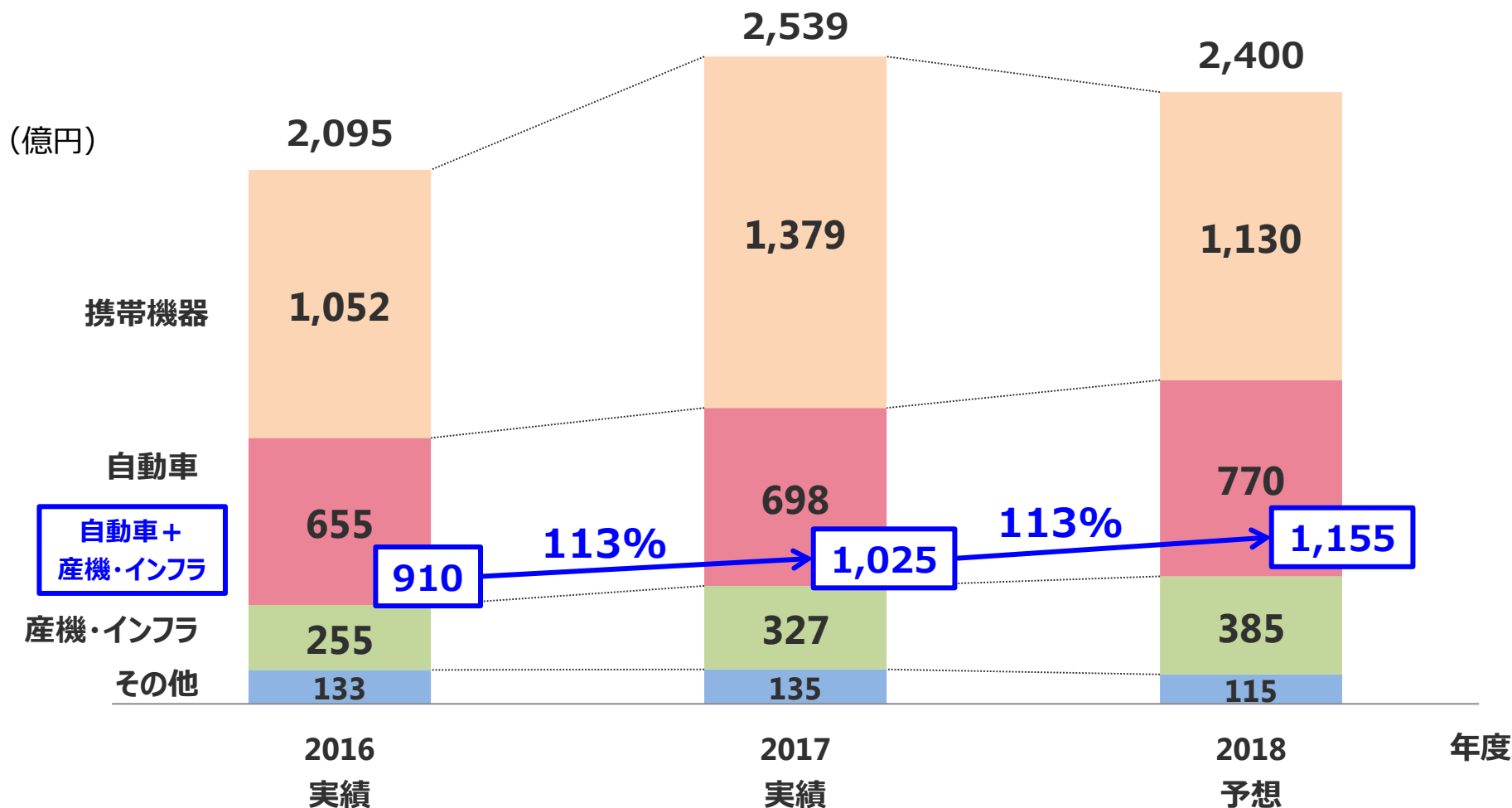
億円	2017年度			2018年度予想					
	上期	下期		上期予想	前年同期比		通期予想	前年比	
売上高	1,245	1,294	2,539	1,165	-80	94%	2,400	-139	95%
営業利益	95	111	206	95	0	100%	200	-6	97%
対売上比	7.6%	8.6%	8.1%	8.2%			8.3%		
経常利益	85	89	174	85	1	101%	175	1	101%
対売上比	6.8%	6.9%	6.8%	7.3%			7.3%		
純利益	62	67	129	63	1	101%	130	1	100%
対売上比	5.0%	5.2%	5.1%	5.4%			5.4%		

為替レート	111.0	110.7	110.9	107.0		107.0	
-------	-------	-------	-------	-------	--	-------	--

(円/US\$) 期中平均。2018年度は想定

設備投資 (年間)	220	
償却費 (年間)	210	(固定資産の除却含む)

- ▶ 携帯機器は2016年度に開始した新製品の需要の減少が見込まれ、前年比減収となるものの、1,000億円を超える水準を維持
- ▶ 自動車、産機・インフラ向けの高成長を継続

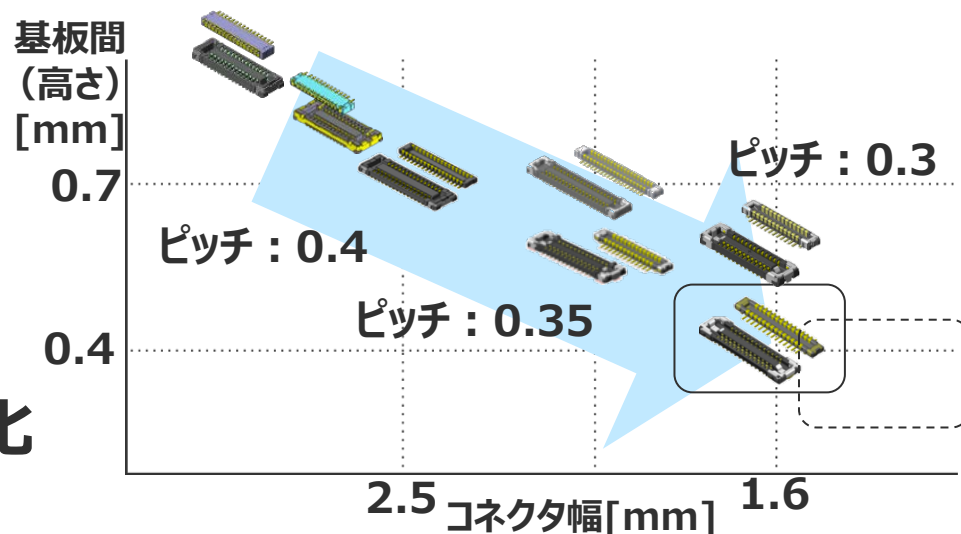


事業部門別売上見通し

億円	2017年度		2018年度予想					
	上期		上期予想	前年同期比		通期予想	前年比	
コネクタ	1,143	2,316	1,050	-93	92%	2,155	-161	93%
UIS	41	86	43	2	104%	89	3	104%
航機	57	129	66	9	116%	144	15	112%
その他	4	9	6	2	146%	12	3	140%
計	1,245	2,539	1,165	-80	94%	2,400	-139	95%

重点製品（DX07、基板対基板コネクタ）の継続強化

- ▶ USB Type-C「DX07シリーズ」の販売拡大
 - ノートPC向けレセプタクル トップクラスシェアの維持・拡大
 - 高機能製品の拡充による競争力強化
 - 防水タイプ（撥水コーティング含めた防水対応）、高速伝送対応、アクティブケーブル など
- ▶ スマートフォンの高機能・多機能化に対応した基板対基板コネクタの製品化、拡販
 - さらなる小型化・低背化
 - アンテナ用、電源端子付など新たなニーズに対応
 - 中国スマートフォンメーカーへのデザイン・イン活動強化

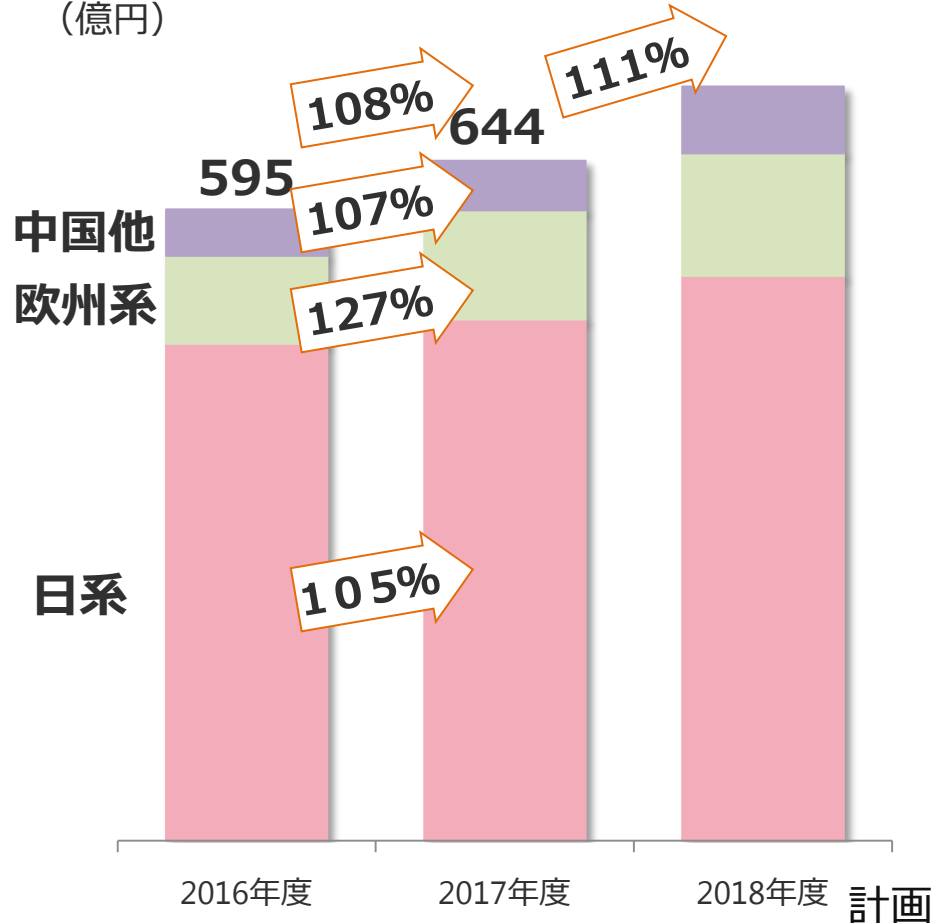


今期計画達成に向けた取組み

自動車向けコネクタ売上高

顧客（自動車メーカ）別

（億円）



▶ 日系顧客基盤強化

- 情報通信系の継続強化
- 車載デジタルカメラ向けコネクタの量産開始

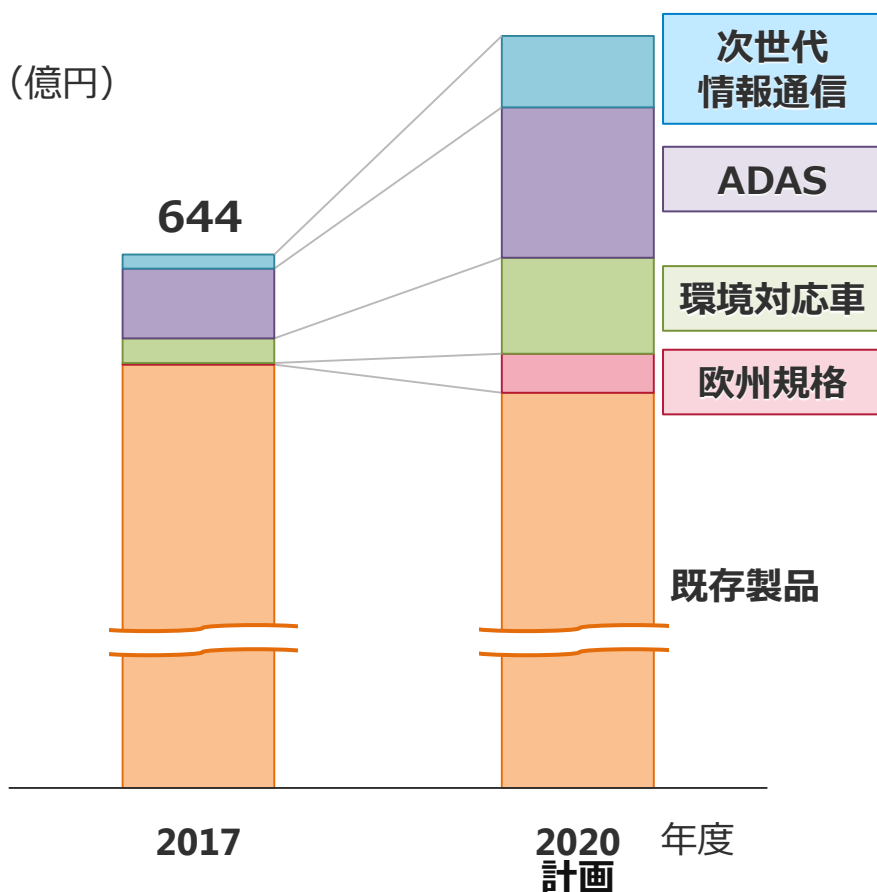
▶ 欧州、中国顧客向け売上拡大

- 欧州：既存顧客での車種、部位展開
- 中国：環境対応車向け強化

さらなる成長に向け、製品開発、マーケティングや生産体制を強化

さらなる成長に向けた取組み

自動車向けコネクタ売上計画
(今後の成長領域)



- ▶ ICTで培った高速伝送の強みを活用し、情報通信系の進化をリード
- ▶ 車載カメラ用コネクタを軸にADAS向け事業を拡大
- ▶ 環境対応車向け製品の拡充(大電流対応等)
- ▶ ドイツ標準規格コネクタ等の製品拡充により、欧州顧客を拡大

技術人員を3年間で1.5倍に増強
今後3年間に従来比1.5倍の
設備投資を計画

自動車用コネクタ及びハーネス生産体制を増強

▶ JAE Philippines第二工場に新棟建設

- 自動車用コネクタなどの事業拡大に備え、新棟を建設
総床面積を約1.5倍に拡張
- 2018年2月着工済み。11月竣工予定

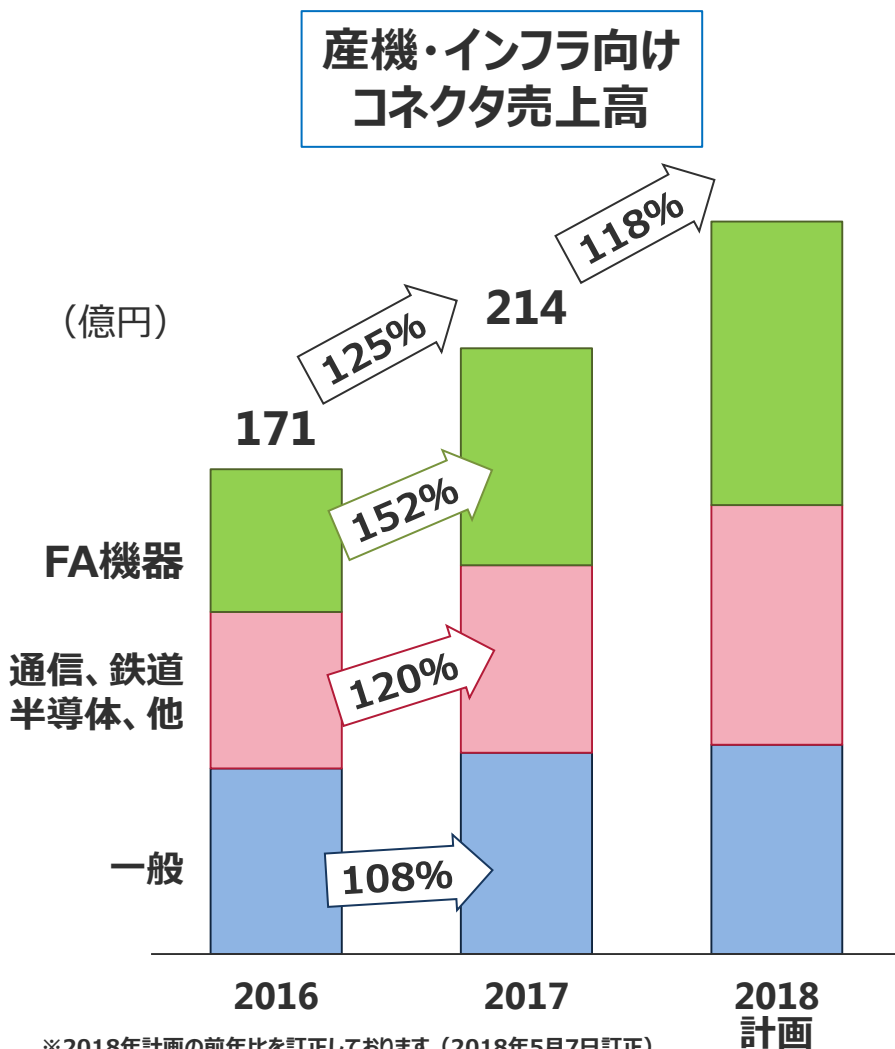
フィリピン工場完成予想図（第二工場全体図）



主な生産品目

- 自動車用コネクタ及びハーネス
ETC用コネクタ
- DX07シリーズ（USB Type-C）
などのICT機器向けハーネス 他

FA機器を中心に好調な需要の獲得と領域拡大を推進



▶ FA市場での売上拡大

- 国内大手顧客でのシェア
(サーボモータ向け、CNC向け、
電源用コネクタ等)
- 海外（アジア、欧州）市場向け
拡販の強化

▶ 今後の成長に向けた製品開発

- ロボット向け製品の拡充
- 5G（第五世代移動通信）の
商用化に向けた、基地局、データ
センタ向け製品の開発加速

車載タッチパネル事業の成長に向けた取組みを加速

▶ 次世代製品の量産開始

メタルメッシュ・フィルムセンサ

業界初



- 2017年度に量産開始済み
2018年度から売上寄与

メタルメッシュ・ガラスセンサ

業界初



- 2018年9月～量産開始

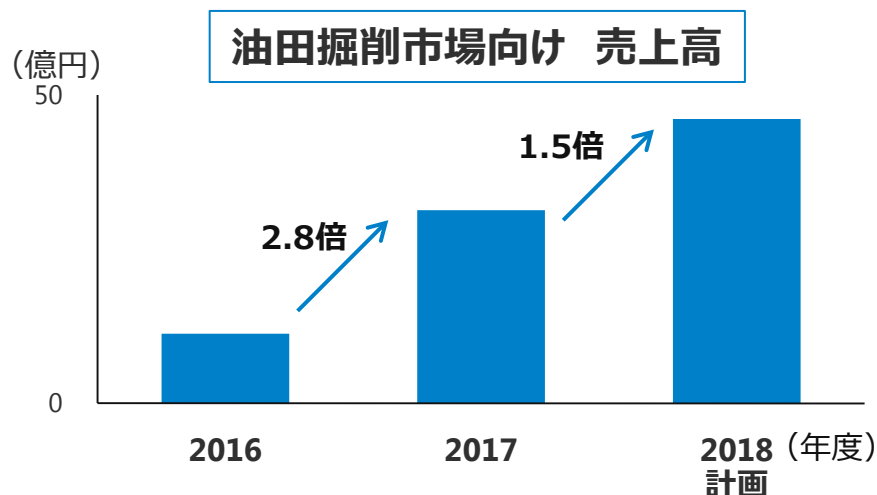
▶ 生産体制の強化

- 2017年度実績 150万枚超を達成
- 2019年度目標 200万枚に向けて
昭島事業所内の生産ライン拡大



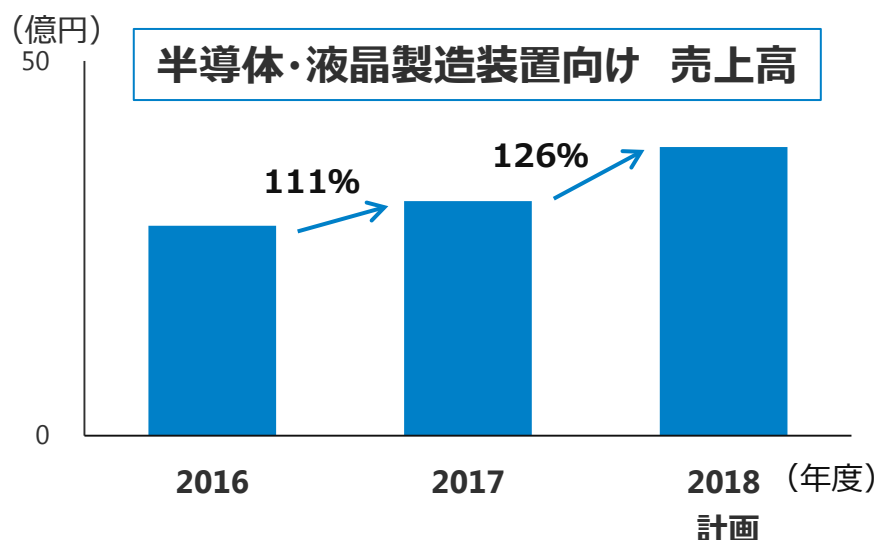
フィルムセンサ量産ライン

市場好調な油田掘削、半導体製造装置向け事業の拡大



▶ 油田掘削向け

- 北米販売・サポート体制拡充。
シェール関連向けを中心とした
DDM拡販の強化
(Digital Directional Module)
- 油井の深度化/長尺化に対応した
「堅牢化加速度計」量産化



▶ 半導体・液晶製造装置向け

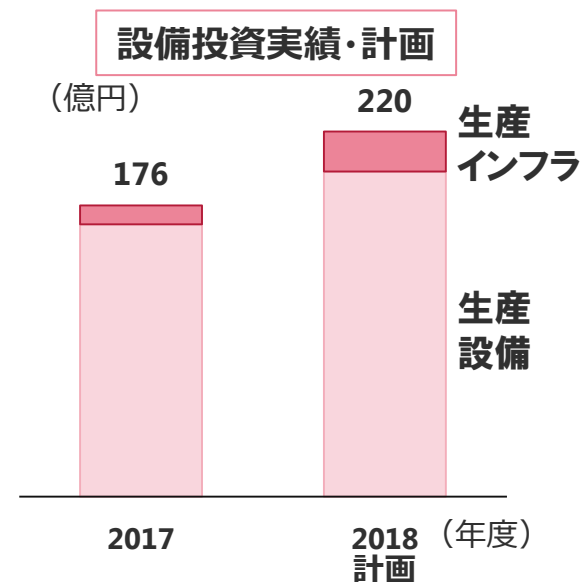
- 需要好調な半導体露光装置向け
LM（リニアモータ）の生産拡大
- コア技術（コイル、LM制御）を
活かした領域・製品の拡大
(液晶露光装置向け、半導体検査
装置向けなど)

▶ 生産体制強化、合理化投資の拡大

- 生産インフラ拡充投資の継続
(フィリピン工場他)
- 生産効率向上、内製拡大に向けた
設備投資増強
(高速プレス機、めっきライン等)

▶ 業界トップを目指した生産技術の進化

- 超高速自動機によるコスト競争力の強化
- ロボット組立による多品種少量アイテム
生産の省人化
- 自動車用ハーネス、ICTハーネス（Type-
C等）の生産自動化・省人化推進



**グローバルマーケティングの強化と生産性向上により、
売上・利益の成長を目指す**

- **携帯機器向け売上の維持**
- **自動車、産機・インフラ市場での成長加速**
- **ものづくりの革新による生産性向上**

**2018年度計画を達成して成長の基盤を固めると同時に
中期的成長に向けた開発・マーケティングを強化**

Technology to Inspire Innovation

JAE

<注意事項>

本資料に記載されている当社および連結子会社（以下JAEと総称します）の計画、戦略および業績見通し・目標は2018年4月25日現在の予測・目標であって、リスクや不確定な要素を含んでおります。

本資料に記載されている目標は予想ではなく、将来の業績に関する経営陣の現在の予想を反映したものではありません。むしろ、経営陣が事業戦略の実行を通じて達成しようとする目標であります。

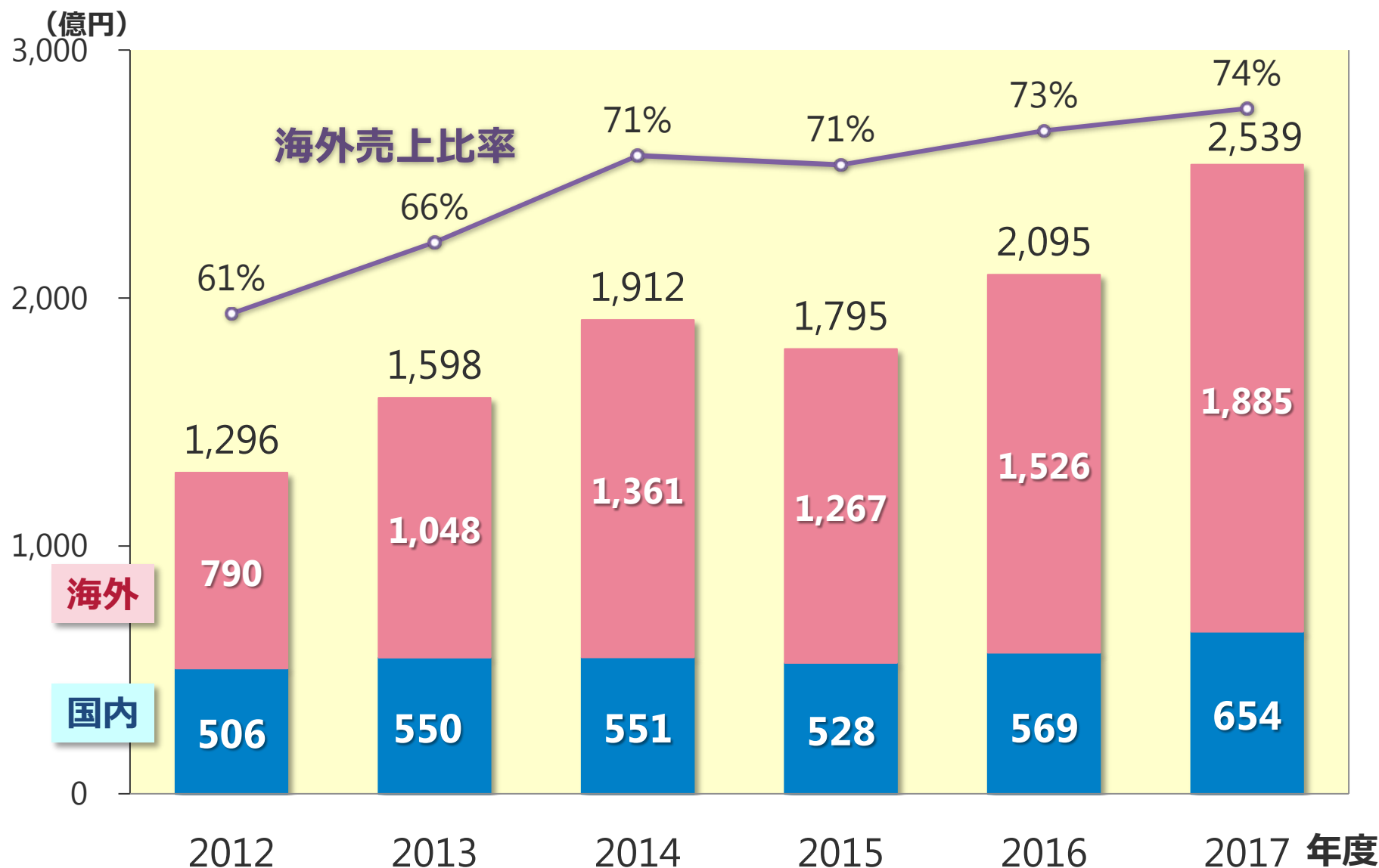
実際の業績は、様々な要因により、見通し・目標等と大きく異なる結果となりうることを予めご承知願います。実際の業績等に影響を与える重要な要因としてはJAEの事業領域を取り巻く日本・欧米・アジア等の政治・経済情勢、市場におけるJAE製品（リフト製品を含む）に対する需要変動、競争激化による価格下落圧力、および競合各社に打ち勝ち供給し続ける能力、海外市場における事業拡大能力、事業活動に関する法規の変更やその不透明さ、潜在的な法的責任、為替レートなどがありますが、これら以外にも様々な要因が有り得ます。世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷などにより、実際の業績等が経営目標その他の見通しと異なる結果となる可能性もあります。将来予測に関する記述は、その日現在のものであることをご承知おきください。

新たなリスクや不確定要因は随時発生することが明らかなですが、その発生や影響を予測することは不可能であります。また、リスクや不確定要因がある為、将来予測に関して記述されている内容が実際には起こらない場合もあります。これらの記述に全面的に依拠することの無きようお願いいたします。

[全社] 市場別売上高

億円	2016年度			2017年度				2018年1月 予想値
	上期	下期		上期	下期		前年比	
携帯機器	395	657	1,052	692	686	1,379	131%	1,350
自動車	315	340	655	331	367	698	107%	690
産機・インフラ	123	132	255	154	173	327	128%	320
その他	65	68	133	67	68	135	102%	140
計	899	1,196	2,095	1,245	1,294	2,539	121%	2,500

[全社] 国内・海外別売上高



億円	2016年度			2017年度				2018年1月 予想値
	上期	下期		上期	下期	前年比		
コネクタ	799	1,093	1,893	1,143	1,173	2,316	122%	2,276
UIS	37	44	81	41	45	86	106%	86
航機	59	56	114	57	72	129	113%	130
その他	3	4	7	4	4	9	122%	8
計	899	1,196	2,095	1,245	1,294	2,539	121%	2,500

下段は売上高営業利益率

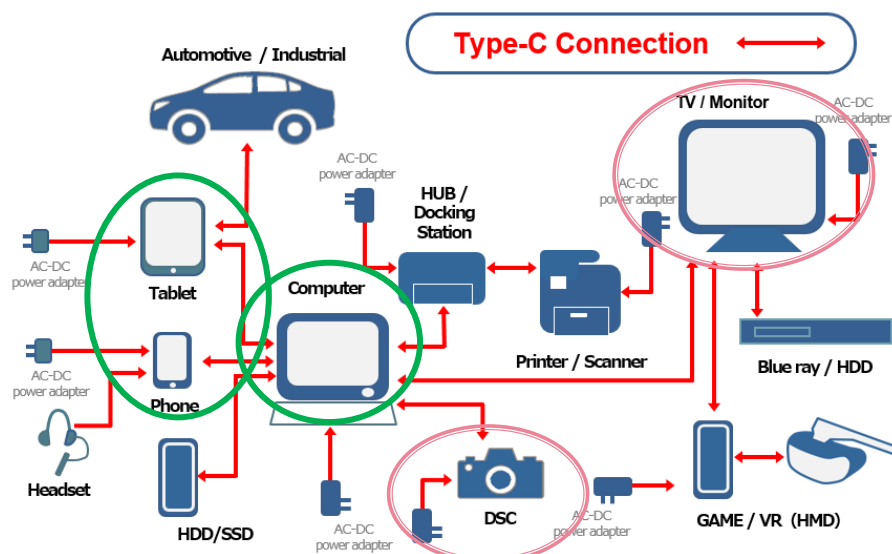
億円	2016年度			2017年度			前年比
	上期	下期		上期	下期		増減
コネクタ	64 8.0%	97 8.9%	161 8.5%	112 9.8%	121 10.3%	233 10.1%	72
UIS	4 9.8%	4 9.3%	8 9.5%	4 9.2%	4 9.7%	8 9.4%	0
航機	-4 -6.8%	-2 -2.8%	-6 -4.9%	1 1.6%	6 8.9%	7 5.7%	13
配賦不能 他	-22	-20	-42	-22	-20	-42	0
全社	41 4.6%	79 6.6%	121 5.8%	95 7.6%	111 8.6%	206 8.1%	86

[全社] 市場別売上見通し

	2017年度		2018年度予想					
	上期		上期予想	前年同期比		通期予想	前年比	
携帯機器	692	1,379	547	-145	79%	1,130	-249	82%
自動車	331	698	378	47	114%	770	72	110%
産機・ インフラ	154	327	185	31	120%	385	58	118%
その他	67	135	55	-12	82%	115	-20	85%
計	1,245	2,539	1,165	-80	94%	2,400	-139	95%

Type-Cコネクタの普及動向

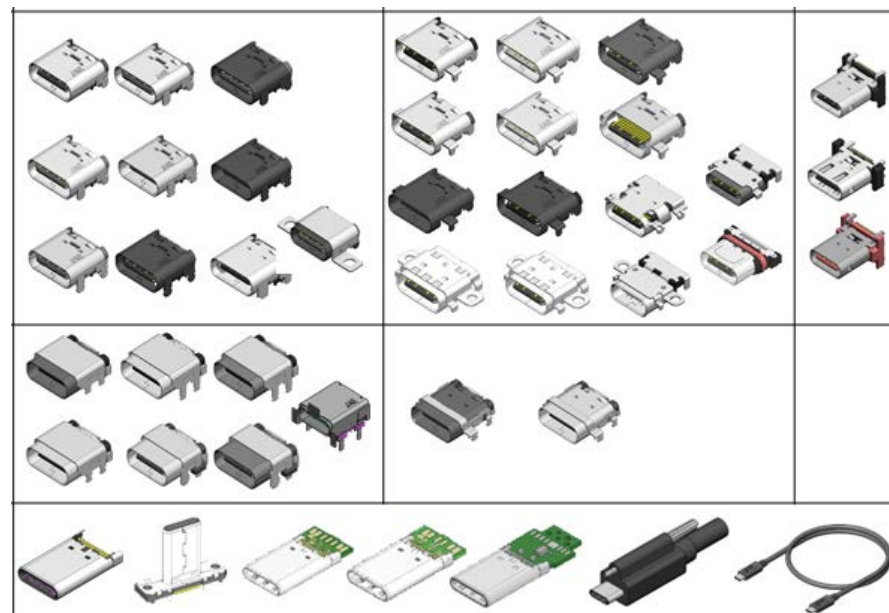
- ノートPCでは順調に普及拡大
2018年は搭載率60%以上（当社予測）
- スマホ・タブレットではハイエンド機種から普及が始まり、搭載率30%超へ



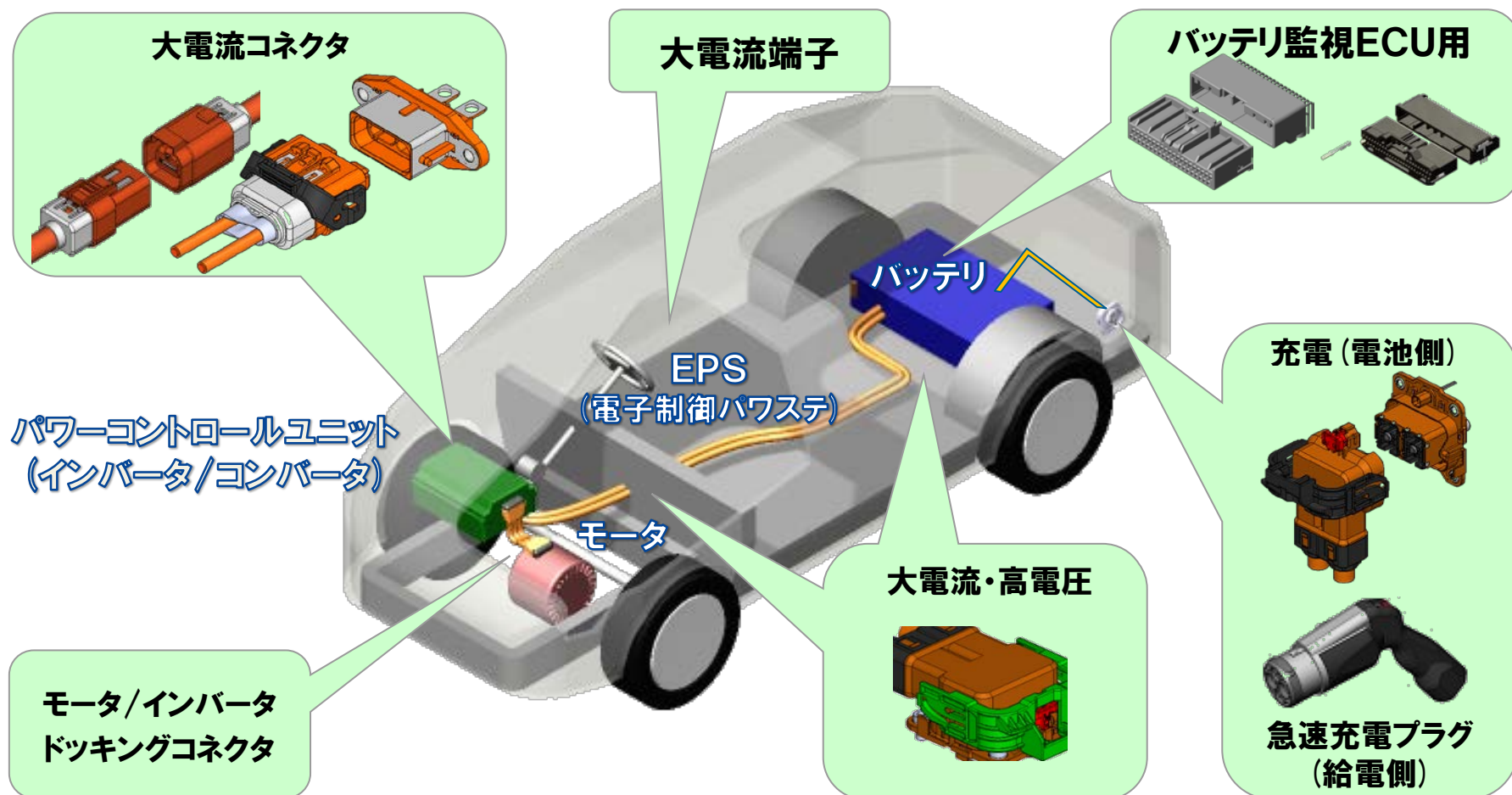
- TV、DSC（デジカメ）では、一部搭載が始まっているものの、本格普及は今後

DX07シリーズ製品ラインナップ

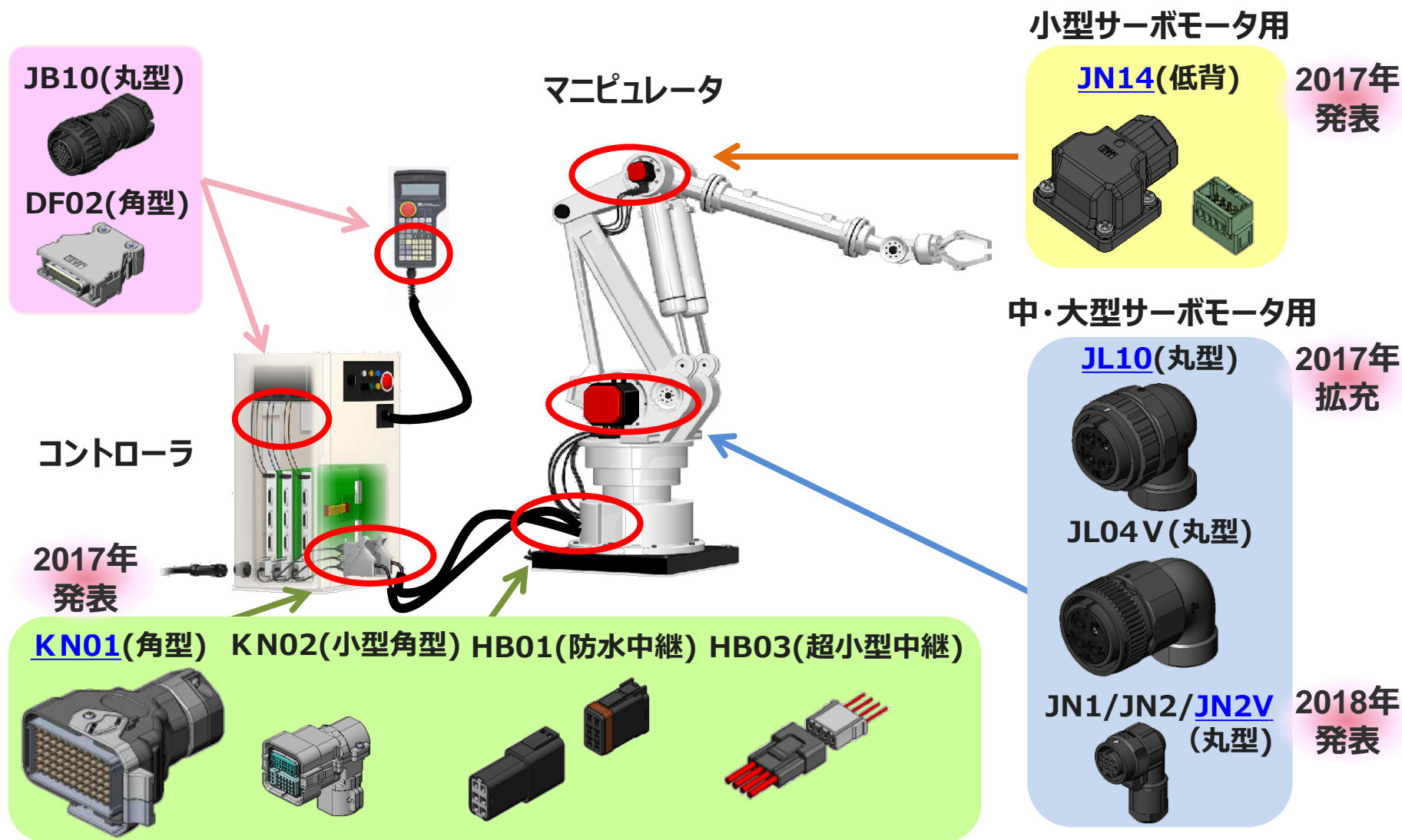
- 豊富な製品バリエーションをそろえ、顧客ニーズに広く対応
- USB規格の進化を捉え、高機能製品を拡充



バッテリー、モータ、インバータ/コンバータ間の接続部に注力



参考：ロボット向けコネクタ



※製品発表年は暦年



	ガラス			フィルム
	スタンダード (ITO)	全面透明タイプ ^o (ITO)	メタルメッシュ センサ	メタルメッシュ センサ
製品外観		業界初 	業界初 	業界初 
特長	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 豊富な市場実績 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 周辺配線にITOを使用しているため狭額縁化可能 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 高感度 ➢ 大画面化時の剛性確保 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 高い屈曲性 ➢ 高感度 ➢ 薄型・軽量
最大サイズ	～10"程度			～20"程度

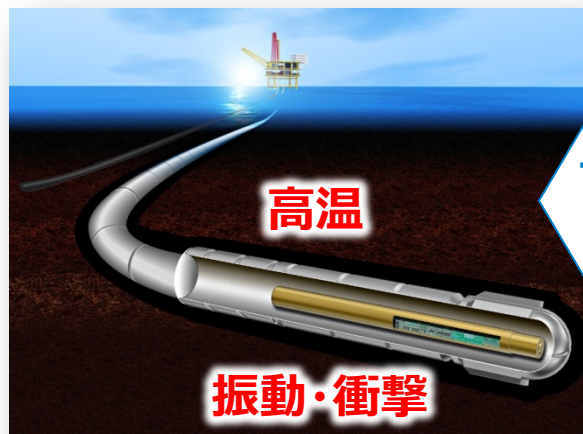
ITO : Indium Tin Oxide (酸化インジウム錫)

参考：航機事業の主要製品（民需市場向け）

JAE

Technology to Inspire Innovation

油田掘削向け



世界の掘削現場で
JAE製品が活躍

センサ・パッケージ



DDM



アナログDM

センサ

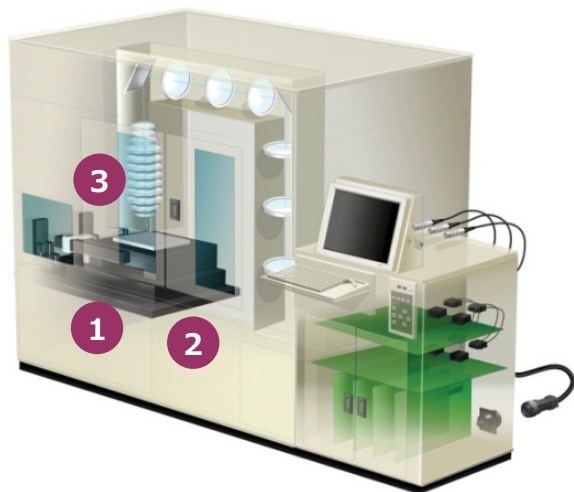


加速度計



地磁気センサ

半導体製造装置向け



① 加速度計



③ レンズ／ミラー



② リニアモータ

